

エピソードの収集に基づく  
表面的同調行動の要因の特定  
1230553 山下慧樹  
指導教員 中川善典

#### 研究背景

私は同調行動に屈したことがあり、抜け出す方法を研究していた。しかし既存研究から同調行動にはポジティブな面とネガティブな面があることを知った。私自身ネガティブなものとして捉えているため、実際のフィールド調査やインタビュー調査を行うことで彼ら視点の原因を見つけたいと考えた。

#### 研究目的

実際に同調行動をとった人にインタビューをすることで、新しい切り口で同調行動や原因を理解することを本研究の研究目的とする。

#### 調査、分析方法

同調行動をとったことのある学生1人を対象にインタビュー調査を行った。インタビュー時は音声を録音。その後、文字おこしを行う。文字おこし作成後、エピソードの記述を行いGoogle フォームの例文として使う。Google フォームによる記述式アンケートは一人の人が同調行動を発動させたケースと違う場合を一人の人から聞き出して、何が違うのかを調べた。

#### 調査結果

Aさん「親近的距離感」が原因として、同調行動を行った。その結果、自分の態度を表明しない態度をとった。Bさんは「積極的消極性」が原因として同調行動を行った。その結果、リーダーとしての自分とフォロワーとしての他者との関係性を保った。Cさんは相手のことは考えない。これは無配慮のように考えながらもその無配慮が配慮を行っているという事例であるため、「無配慮的配慮」であると考えられる。

#### 結論

表面的同調を引き起こす原因として二つの同調的概念が見つかった。それは「親近的距離感」と「積極的消極性」である。

また同調行動をにおいては、同調行動に陥らないための要因として「無配慮的配慮」を取っているということが分かった。

#### 考察

既存研究では同調行動について、定量的なアンケートを行う形式で研究しているが、インタビュー調査やエピソードを使う新しい切り口で研究することで同調行動についての原因を見つけることができる。